

鳥取県・若桜鉄道によるまちづくり

～歴史遺産と SL 目玉に～

日本不動産研究所 鳥取支所
不動産鑑定士 向井 伸

1. 若桜鉄道の概況

若桜鉄道は鳥取県東部の J R 因美線郡家駅（八頭町）と若桜駅（若桜町）を結ぶ 19.2km の鉄道で、昭和 5(1930)年に鉄道省若桜線としてスタートし、昭和 62(1987)年 10 月に J R 西日本から引き継ぎ第三セクターとして開業した鉄道である。両駅の間には、丹比、八東、徳丸、安部、隼、因幡船岡、八頭高校前の 7 駅があり、平成 21(2009)年にそれら沿線の駅舎や鉄橋など鉄道関連施設 23 カ所が国の登録有形文化財として登録され歴史的遺産として注目されている。

2. 鉄道沿線

沿線の八頭町には、駅本屋、プラットホーム、橋梁、落石覆、雪覆など 15 施設が登録有形文化財に指定され、このうち 2 つを紹介する。

1) 隼駅本屋及びプラットホーム

若桜線は昭和 3(1928)年に当駅まで開通し、昭和 5(1930)年に若桜駅までの全線が開通する間の終着駅であったため、本屋のほか乗務員休憩所など、他の駅ではみられない施設が設けられている。外観だけでなく、待合室内部も往時の姿を残している。近年、バイク「ハヤブサ」のライダーが全国各地から多数この駅を訪れている。



「乗務員休憩所などが残る隼駅」

2) 落石覆

昭和 30 年代に築造された鉄筋コンクリート造の構造物で重厚な作りである。側壁に 14 連の半円アーチを設けている。頂部には土を詰め、落石時のクッションの役割を果たしている。



「八頭町内にある『落石覆』」

3. 若桜駅構内

終着駅である若桜駅構内には、駅本屋及びプラットフォーム、物置及び灯室、旧西転、東転、諸車庫、機関車転車台、給水塔、流雪溝の8施設が登録有形文化財に指定されている。

この中で、特に注目されるのが、機関車転車台である。これは駅構内の下り方向に位置する機関車の方向を上り方向に変えるための台で、機関車の載ったプレートガーターを回転させ、約40トンのSLを人力により簡単に回すことができる。底はすり鉢状になっており、冬季は流水を導入して、融雪、凍結防止を図っている。現在、観光客は、この施設の操作を体験することができる。



「若桜駅構内の機関車転車台。観光客は操作体験できる。」

4. SL

昭和の時代〔昭和19(1944)年から昭和21(1946)年〕に若桜線で活躍した蒸気機関車C12-167号が兵庫県多可町から平成19(2007)年に若桜駅に帰ってきて、現在、若桜駅構内で体験運転・展示走行等を行い観光の一翼を担っている。現在、SL観光列車運行実現に向け、地域が結束して取り組んでいる。実際に本線を走るためには、鉄道事業法の検査が必要であり、そのためには多額の復元費用、車両整備費用が必要となり、それをまかなうため募金活動を行っている。

5. 若桜町

若桜駅を出れば、蔵通り、仮屋通りと昭和レトロな面影の町並みが残り、往時の若桜宿の繁栄ぶりをしのばせる。若桜鬼ヶ城跡、若桜神社、若桜弁財天、若桜郷土文化の里、昭とおもちゃ館と駅から徒歩圏内に見どころも多い。少し離れてはいるが、不動院岩屋堂は、日本三大投入堂の一つで昭和28(1953)年に国の重要文化財に指定されており、天然の岩窟内の舞台造りは見物である。

S Lが観光の目玉として走り、若桜町、八頭町が観光客で賑わい、地域が元気になることを期待する。